

会 議 録

全部記録

要点記録

1 会議名	令和元年度 第2回ひめじ創生戦略会議
2 開催日時	令和2年2月20日(木) 15時30分～17時15分
3 開催場所	防災センター3階 消防局第1会議室
4 出席者又は欠席者名	ひめじ創生戦略会議委員13人、市長、事務局
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可(5人) 傍聴人(5人)
6 議題又は案件及び結論等	<ol style="list-style-type: none">1 開 会2 議 事<ol style="list-style-type: none">(1) 令和元年度ひめじ創生戦略アクションプラン進捗状況について(2) ひめじ創生戦略アクションプラン令和2年度改定版(案)について3 その他4 閉 会
7 会議の全部内容又は進行記録	詳細については別紙参照

市長	<p>1 開会（15:30）</p> <p>挨拶</p>
事務局	<p>※令和元年度第2回ひめじ創生戦略会議の概要説明</p>
事務局	<p>2 議事（15:35）</p> <p>【説明】</p>
会長	<p>資料1、2、3について、ご質問、ご意見があれば発言をお願いしたい。</p>
委員	<p>不動産情報サイト「LIFULL HOME ‘S」の2020年近畿圏版住みたい街ランキングでは、姫路市は家を買って住みたいまち2位、家を借りて住みたいまち3位にランクインし、住みたいまちとしての人気が高いことはうれしいところであるが、一方で、市内の小中学校で不登校が増え、県平均よりも高い数値となっているという新聞報道があった。教育環境は、子を持つ親としては居住地を決める上で非常に重視される部分であるので、姫路市としてもしっかり現状を把握し、改善できるよう努める必要がある。</p>
事務局	<p>来年度、教育委員会において、校区ごとに人的・物的資源を活かして特色を出していくカリキュラム・マネジメントの推進に取り組む。これだけで不登校が改善するわけではないが、引き続き教育分野における取り組みを進めていきたい。</p>
委員	<p>国では教員の変形労働制が検討されているが、それだけではなく、教員の定数をしっかり考えておかないと、カリキュラム・マネジメントに取り組んでも効果は薄い可能性がある。</p>
事務局	<p>国では、他にも、ICTを活用し、教員の事務負担を減らすことで、その時間を子どもたちの教育の充実に充てるということも検討されているので、今後しっかり情報を入手していきたい。</p>

<p>会長</p>	<p>ICTの活用については、子どもたちにタブレットを配布した後の教育のやり方についてもしっかり考えておく必要がある。タブレット配布によりコミュニケーションの機会が減少することで、いじめ等に気がつかない可能性もあると思われる。</p>
<p>委員</p>	<p>県として、ひょうご地域創生戦略を5カ年で取り組んできたが、人口の増減だけに着目しすぎたのではないかと感じる。今住んでいる方々とともに地域の元気づくりに注力して、将来的な姫路市へのUターンにつなげるようなアプローチも必要と考える。また、各市町で特色を出して、中播磨全体としての活力を維持していきたい。</p>
<p>市長</p>	<p>近年は、病気の流行などにより学級閉鎖も多いため、夏休みが長すぎることで3学期にしわ寄せが来てしまうケースがある。中播磨の4市町で学校の夏休みを短くする議論についても検討したいと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>今後、県外から働きに来られる方も多くなってくると推測される。中小企業がそのような方を受け入れられる体制づくりの構築も必要である。</p>
<p>委員</p>	<p>人口推計のグラフについてだが、推計なので仕方ないと思うが、1本の線だけで示すのではなく、もう少し見せ方も検討してもらいたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>ひめじ創生戦略の策定当時は、2060年47万人維持は非常に高い目標だと考えていたが、その後の社人研の推計でも改善がされるなど、今となっては現実的な目標と考えている。見せ方については検討したい。</p>
<p>委員</p>	<p>若い女性がどのようなニーズで市外に出ってしまうのかを過去の調査等で把握していればご教示願いたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>過去に市内の高校生を対象に行ったアンケート調査では、男性よりも女性のほうが、製造業などの本社機能など、オフィス系の仕事を望む傾向があり、そういった職場が姫路市には少ないことも要因かと考える。</p>

委員	<p>従来あった雇用促進住宅のように、中小企業で働く意思のある方が家族で住みやすい住宅を提供すれば、姫路市にもっと来てもらえるのではないかと。また、移住するためには試し住まいも必要で、お試し移住にも活用できる。</p>
委員	<p>保育士でも奨学金の返済が終わるなど、きりのいい時に、仕事を辞めたいという方が多く、姫路市でもいろいろな取り組みを行ってもらっているが、結局は定着していないのが現状であり、検証が必要である。</p>
委員	<p>本会議に姫路市連合自治会や姫路市連合婦人会の代表者が出席されているように、地域の農業振興を図るためにも、農区長の代表者にも出席していただきたい。</p>
委員	<p>ある小学校では、来年度から家庭訪問が廃止されるなど、教育現場の働き方改革を進めている。また、座って静かに授業を受けることができない子どもや集団生活が苦手な子どもなどもあるため、そのような場合も受け入れる体制づくりも進めていただきたい。</p>
委員	<p>企業では、労働力不足を解消するために、外国人にたくさん来てもらって力になっていただいている。もっと外国人労働者が来て働きやすいよう、生活を支援できる体制づくりも必要である。</p>
委員	<p>今後は外国人の力が必要になる。有効に力をお借りするためにも、そのような支援体制づくりは必要である。</p>
市長	<p>いわゆる「3K」の職場を、ネガティブなイメージではなく、人から「感謝」してもらえる仕事という意味で、頭文字のKとして考えるなど、新しいイメージ作りも必要である。</p>
委員	<p>姫路市には小規模・零細企業が多く、労働力不足は深刻だが、大卒を雇用する力はない。高卒も、姫路市には大学が少ないため、一度外に出てし</p>

会長	<p>まうと、帰ってきにくい現状である。</p> <p>今後、定年延長もあり、75歳までを労働力人口として考えると仮定すれば、高齢者を支えられるかもしれない。健康寿命も延伸しているので、考え方の転換も必要である。</p> <p>本日の会議では、姫路市へのUターンについて、教育の視点、企業の視点など、様々な視点から意見をいただいた。よろしくお願ひしたい。</p> <p>3 その他</p>
事務局	<p>※連絡事項</p> <p>4 閉会（17:15）</p>